

事業主体

大阪大学

調査研究名

多機関連携による南相馬市の子ども支援体制の構築（PHASE1）

調査研究の概要

- 1) これまでの成果と今年度の研究の方向性を定めるための学会発表(専門家との意見交換)
- 2) 多機関連携に基づく子供支援体制の構築。現状把握とその解決に向けたパイロット事業の実施。

実施内容

【小高区での聞き取り】

7月6日～7日 小高区在住の約10名の方に震災前・震災後の変化を丁寧に聞き取り、また、どのような支援を必要としているかという点についても尋ね、今後の方針查定の参考にした。

【調査の成果発表】

8月～9月 自然災害学会、日本特殊教育学会において、得られた成果をもとに意見交換会を実施。

【生涯学習センターとの協働】

1月3日～7日 冬休みの宿題を中心とした学習支援活動を実施した。4日間でのべ100人の子どもが参加した。

調査研究機関

平成31年4月1日～令和2年3月31日

南相馬市の課題

調査研究により

- ・小高区においては、ロールモデルとなる大人が減少している。しかし外部から訪問する人々というリソースを用いた子どもの支援体制の再構築には、可能性を感じる。
 - ・学習支援活動に参加する子供や保護者たちにとって、活動が市内の公共機関と連携していることは一定の信頼に繋がる。即ち公的機関と外部からの参入者の連携を拓けていく必要がある。
- という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になった。

問題解決の提言

課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされる。

- ・復興大学を通じて市内のフィールドワークを実施する学生を中心に、ネットワークの構築と連続性のあるイベントの開催。
- ・行政も積極的に参加を呼びかけ、保護者が子どもを預けやすい安心できる環境を提供する。